



ゆたか福社会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「合掌造り」 トライズ 福吉 幸実さん ※紹介が8ページにあります。

CONTENTS

- ▶ シリーズ 50 周年に想う③ P2～3
～「新たなゆたか方式を」～
- ▶ 年頭挨拶 P4
- ▶ 事業開始 50 周年記念集会 着々と準備中！ P5

2020年1月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福社会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福社会

検索

連載

シリーズ 50周年に想う 31

「新たなゆたか方式を」

きょうざれん専務理事 藤井 克徳

万感を込めて

「大河の一滴」から始まった営みが半世紀に及ぶこと自体驚愕だが、それが山あり谷あ



りの道のりであったことを併せみれば、驚愕というより感動と言った方が的確かもしれない。その感動は第三者的な感覚とは異なる。私自身も、共同作業所づくり運動の当事者としてほぼ同時期を生きており、その立場からすれば感動だけでは言い尽くせない。何とも言えない共感のようなものがこみ上げてくる。そんな気持ちを込めながら、以下に、ゆたか共同作業所と、その後継であり経営主体となっている社会福祉法人ゆたか福祉会（以下、「ゆたか」）への思いを綴ってみた。

もたらしたものの

「ゆたか」がもたらしたものは計り知れない。日本の障害分野の風景を大きく変える端緒になったと言って過言でない。もたらしたものを大別すると、三点に集約できる。

一点目は、全国の共同作業所づくり運動を励まし、方向付けをしてくれたことである。共同作業所は、無認可作業所とか小規模作業所などとも呼称されてきたが、その数は1980年代から2000年初頭にかけて爆発的に増えることになる。ピークとなった2006年には、地方自治体の補助金対象だけでも6200か所余に上った。その先陣を切ったのが「ゆたか」であり、それだけでは

なく共同作業所の大切さを一貫して発信してきた。日本列島のあちこちで、「うちでもできるのでは」という気持ちを醸成させ、実際にも豆電球がともるようにして、次々と各地に共同作業所が誕生した。

二点目は、「共同」を実践してきたことである。よく、「共同作業所の『共同』とは」という質問を受けることがあるが、「ゆたか」の草創期とその後の実践にそれをみる事ができる。具体的には、①地域住民共同の事業として、②障害のある人を真ん中に、家族、職員、運営に携わる理事など関係者すべてが共同して取り組もう、③障害のある利用者が共同（協力や支え合い）の気持ちを持つ、の三点が

重要な要素になっている。「共同作業所らしさ」の正体と言い換えてもよからう。ただし、「ゆたか」が最初からこれらを明確にしていたわけではなく、輪郭がはつきりとしてきたのは後から振り返ることだと思う。

三点目は、作業所で働く障害のある人を、「なかま」と呼称したことである。もちろん、「ゆたか」に関係した人すべてが仲間であったはずだ。しかし、当時の社会は、「関係者同士の仲間」から障害のある人を外するのが一般的だった。「なかま」には、障害のある人も「仲間の一員」とする姿勢が意図的に示され、「みんないっしょだよ」という水平思考がみて取れる。「なかま」は、「ゆたかブランド」として今に続いている。



下支え

次に、「ゆたか」ときょうされんの関係について簡単に述べる。きょうされんの元の名は共同作業所全国連絡会であり（2001年に改称）、文字通り共同作業所の全国組織として1977年8月6日に結成された。結成時の会員（事業所）は16か所で、現在は1900か所近くになっている。「ゆたか」は、きょうされんの結成前、結成時、結成後から今日に至るまで、それぞれの段階で掛け替えのない役割を果たしている。「ゆたか」の拡充期の始まりと、きょうされんの結成はほぼ重なり、いつも同じ方向をみつめてきた。めざましい発展を遂げた「ゆたか」であるが、きょうされんへの支援を惜しむことはなかった。きょうされんもまた、「ゆたか」を絶えず魂の拠りどころの一つにしてきたのである。

まず、結成前についてであるが、これに先立って押さえておいてほしいエピソードがある。きょうされん結成の伏線と言っているかもしれない。それは、全障研第5回大会（1970年。東京）での「ゆたか旋風」だった。メジャーデビューと言っている。その後は全障研が仲立ちとなりながら、鈴木清覚さんと私を結び付けてくれ、次第に深まる両者の関係がきょうされんの結成へと結実していった。

結成後の支援は、ますます強力になっていく。とくに、1981年にきょうされんの事務局が名古屋から東京へ移転するまでの4年間の「ゆたか」の貢献は大きかった。それこそおんぶに抱っこ状態が続く。みのり共同作業所内にきょうされん専用の机が置かれ、わずかな負担できょうされん担当職員（非常勤）を配置してくれた。特筆すべきは、秦安雄さん（後の社福ゆたか福祉会理事長 故人）と鈴木峯保さんの存在であり、中堅若手の頑張りだった。こうした人々が鈴木清覚さんの後ろ盾となり、きょうされんを支えてくれたのである。「ゆたか」のこうした気風は、今に引き継がれているように思う。

期待

最後に、「ゆたか」関係者への期待を加えたい。その前提となるのが、「ゆたか」のあらゆる営みのベースに障害者権利条約を据えることである。例えば、①私たちが抜きに私たちのことを決めないで、②定型化された観念、偏見、有害な慣行と戦うこと（第8条）、③その心身がそのまま尊重される権利を有する（第17条）などは、いずれも権利条約にちなんだフレーズである。いずれも、「ゆたか」が大切にしてきた視点と重なる。

そのうえで、まずは障害のあるなかまたちと家族のみなさんに訴えたい。とにかく、個々の要求（ニーズ）を率直に出し合うことである。出した分だけ、「ゆたか」のエネルギの源につながるに違いない。職員のみなさんへの期待は、「あてにされるゆたか」にもっと磨きをかけることである。管理職や経営に携わるみなさんには、「これぞ障害者本位の経営、これぞ民主経営」を極めてほしい。

あらためて、全体を通して強調したいことがある。それは運動を忘れないことである。共同作業所から運動を省いたら、それは単なる箱作りと言ってしまう。同じように、「ゆたか」から運動が薄まったり、消えたとしたら、もはや「ゆたか」ではなくなっていくような気がする。障害のある一人ひとりの人権と尊厳を実質化するためには、地域住民への働きかけは欠かせない。良質の実践（日々の支援）の前提となるのが、関係する法律や制度を分厚くすることである。ゆがんだ法制としないためには、獲得するという視点が肝要で、ここでも運動が絶対的な意味を持つ。そして、強靱でゆたかな運動は、思いもかけない多くの人びとを繋ぎ、明日を拓くためのエネルギをも蓄えてくれる。創設から半世紀という大きな節目に立っている「ゆたか」であるが、運動の面でも新たな「ゆたか方式」を創出してほしい。

2020

新年を
迎えて大きな歴史の節目の年を
みなさんのご協力で

ゆたか福祉会 理事長 鈴木清覺



昨年は、ゆたか福祉会第5期総合計画の最終年にあたり、港区で新しい生活介護事業所「みらいろ」を整備したほか、同事業所の3階にグループホーム「みらいろ」、南区に「かさでらホーム」を整備するなど、一定の成果と前進を築くことができました。ご協力頂きましたみなさまには感謝いたします。

とりわけ、10月には、きょうされん第42回全国大会が名古屋の地で開催され、大きな成功を収めることができました。日本で最初の共同作業所である「ゆたか共同作業所」の誕生50周年を記念しての大会でしたが、改めて50年の歴史の積み上げを大切にしながら、未来を展望する大切な機会となったと思います。ご協力頂きました関係者のみなさまには、大会実行委員会を代表しまして心よりの感謝を申し上げます。

さて、新年を迎え、本年3月に予定されている事業開始50周年記念事業等を関係者の総力を結集し準備しているところであります。

また、現在検討をすすめています第6期総合計画に関しては、5カ年の中期計画とともに、大きく変貌し激動する社会と地域に対応した長期の事業ビジョンについても検討をすすめているところです。3月の記念集会にはなんとか計画をまとめあげ発表し、今後のゆたか福祉会の持続的な発展への第1歩を踏み出していきたいと思っております。

この50年を振り返ると、実に多くの団体・個人のみなさんのご協力によって一歩一歩の歴史が築かれてきたことを実感しています。今後も、国際的（アジアを中心に）な広い視野を持ち、ゆたか福祉会の歴史と理念を大切に、仲間、家族、地域の願いに応え、民主的な事業経営・運営をすすめる法人として一層の努力を行い、関係者の総意を反映させた法人となるための組織運営に努力を続けていきます。

また、地域や関係諸団体との連携を強化し、運動への参加と協同と連携をすすめる、事業の

創設と住みやすい地域づくりに取り組んでいきたいと思っております。

ゆたか福祉会にとっても最も大きなテーマは、歴史を重ねてきた法人として、世代交代をすすめる事業の継承と発展の土台をつくることです。そのためには、人材の確保と育成がなによりも大切になります。とりわけ事業規模にふさわしく、多くの幹部の養成が急務です。そのためにも、内外の諸組織と提携し、職員のみなさんの自主的で積極的な研修への参加を組織し、その能力開発と自己研鑽を推進していきます。

最後に、仲間、家族、職員の全関係者の、ゆたか福祉会の事業とその計画への主体的な参加と団結が、歴史の大きな節目を超えていくもつとも重要な鍵となることを訴え、新年のご挨拶とさせて頂きます。本年もどうぞよろしく願いいたします。



2020
3.28

事業開始50周年記念集会

着々と準備中!



現在、50周年記念集会に向けては「記念式典と歌づくり」「文化企画」「模擬店・売店」の3つのグループに分かれ、準備を進めています。当日は、仲間・家族・職員・関係者でお祝いする記念集会です。

午前の企画では、各事業所で開所当時から利用されている皆さんの表彰や、ボランティアさんへの感謝状の贈呈、第6期総合計画の発表等を予定しています。午後には文化企画として津軽三味線の演奏や地元アイドルグループOS☆U、日本福祉大学夢人党や名古屋学生チーム「鯨」のパフォーマンス、そして最後は50周年を記念して作られた「つなげよう明日へ」をはじめ、元気に歌い踊るステージを創っていききたいと思えます。参加者みんなで楽しめる会にしたいと準備を進めていますので、ご期待ください。

また50周年という大きな節目にあたり記念誌の作成や、歌い継がれてきた歌集の作成も予定しています。この間もつゆはし作業所に保管されていた「ぼくの歌きいてよ」の映画をDVDにしたり、熱田作業所時代のコンサートを収録したレコードをCDにしています。これからも準備状況をお伝えしていきます。

仲間 家族 職員 関係者 でつくる

ゆたか福祉会創立50周年記念集会

日時：2020年3月28日(土)

記念式典 10:00～11:45

文化行事 12:45～15:30

会場：名古屋国際会議場

会場：名古屋国際会議場

141・142 会議室

イベントホール

* 軽食や買い物ができる屋台・模擬店も準備中です!!

ゆたか福祉会創立50周年記念式典・レセプション

日時：2020年3月16日(月)

会場：キャッスルプラザホテル(名古屋駅)

記念式典 10:00～12:30(会場：孔雀の間)

レセプション 13:00～15:30(会場：鳳凰の間)



たくさんの人に支えられて ボランティア紹介

「中部大学ボランティア・NPOセンター」

「中部大学ボランティア・NPOセンター」に所属する学生の皆さんには、年間を通して様々な行事に参加していただいています。お付き合いをさせていただききっかけは、今から10年程前、中部大学の学生さんが実習にみえたことでした。それ以来、毎年、行事にご参加いただいています。

毎年5月に行われる「全国あそびの日ウォークラリー」は、作業所が地域とのつながりで、毎年参加している行事です。幾つかのグループに分かれて、北名古屋市内をクイズやレクリエーションを楽しみながら歩きます。仲間たちは学生さんと歩くのがとても楽しみ。アニメの話で盛り上がった、作業所のことを伝えたり、学生さんにどんな勉強をしているのかを聞いたり、4kmの距離もあつという間に歩くことができます。

9月に行われる「あかつきまつり」にも毎年、参加していただいています。このまつりは規模も大きく、大勢のボランティアさんのご協力があつてこそ、開催することができています。



学生の皆さんには、仲間と一緒に青空舞台の司会や、仲間とペアになって会場内を回っていたり、テントの片付け等、ありとあらゆるお手伝いをお願いしています。仲間たちは「〇〇さん来るかな」「△△さんと一緒に司会がやりたいな」など、まつりが近

あかつき共同作業所（以下、作業所）は、法人の中でもボランティアの皆さんとの関わりも長く、つながりも深い事業所です。今回は中部大学ボランティア・NPOセンターの皆さんを紹介します。

づくともソワソワ 会えるのをとても楽しみにしています。

受け入れる作業所では、学生の皆さんに仲間たちとの交流や、何かを手伝っていただくだけでなく、中身をより充実し、意義のある活動にしていきたいと考えています。打ち合わせや、感想やご意見をいただく振り返りを必ず行っています。学生さんからの率直なご意見やご感想は、職員にとっての大事な気づきの機会です。また、こちらからも色々お話することで、より仲間のことを知っていただくことにつながっています。今年の4月には、学生時代のボランティア活動がきっかけで、ゆたか福祉会の職員になられた方もみえ、とても嬉しく思っています。

あかつき共同作業所 吉見 智子



中部大学ボランティア・NPOセンターとは…（HPより抜粋）

当センターは2014年に10周年を迎え、今年（2019年現在）で15年目になる伝統ある組織です。400人を超えるスタッフが社会教育、社会福祉、環境対策、災害対策、国際理解、地域貢献の6つのプロジェクトに分かれ、年間150以上の幅広い活動に取り組んでいます。

エールでフラダンス始めました

エールは2015年4月に開所した身体障害者に特化したグループホームです。定員は10名（1名体験利用）。地域の中で生活していくことをサポートする「家」として、食事、入浴、洗濯等の支援や誕生日会や旅行、クリスマス会等の余暇支援を大事にしています。

利用している皆さんは、買い物、外出などご自分の生活を楽しみながら、休日は居室で過ごされることが多いです。エールに異動し3年目になりますが、個々での生活は充実されているものの横のつながりが少ないと感じ、「ワイワイと楽しい時間が過ごせると、仲間の輪が広がるのではないか」と思っていました。福祉村で勤務していた時に「イベント時の賑やかになれば」と、なぐら女性職員数人で近くにあったフラダンス教室に通いました。レッスンが続けるうちに体幹が安定して各関節が柔らかくなり、特に股、肩、膝の可動域が広がった気がしました。メロディーに合わせて踊ることは頭の体操にもなります。ドレスを着て舞台上も立って踊るという経験もしました。

「エールで過ごす時間にみんなで何かできないか」という話になり、「フラダンスは身体に負担なく楽しく踊れるのでは」という意見ができました。福祉村で一緒にレッスンしていた職員

に話をしたところ、私たちが以前に通っていた教室の下山先生に相談することをアドバイスされ、連絡したところ快諾していただくことができました。

先生は新城市の湯谷温泉から毎回電車ですて下さり、ハワイアンに合わせたフラと、リハビリを兼ねた歌謡曲フラを教えてくださいました。「いつでも夢を」の手話を基にしたダンスでは皆さんの反応もよく、いつもは手足を動かすことを嫌がる方も自然に動かされています。8月からこれまでに3回行いましたが、楽しく取り組み、覚えてエールの行事で発表したいと思います。

山口 芳美



魅力ある 職場づくりをめざして

ゆたか福祉会ではこれまでも愛知県ファミリー・フレンドリー企業への登録や、子育てサポート支援の認定事業主として「くるみんマーク」の取得を行ってきました。またこの間は「AICHI WISH 企業」としての認定を受けました。

この事業については働き方改革関連法が順次施行されることを踏まえて、令和3年3月31日をもって終了されることですが、これからも職場環境の改善や待遇の改善等に努め、魅力ある職場づくりをめざしていきたいと思えます。





11月

- 3日(日) 南区障害者と区民のつどいさわやかウオーク
- 5日(火) きょうされん愛知支部名古屋市行政懇談 /三法人交流会
- 6日(水) 広報・ホームページ編集委員会 /新管理職研修
- 8日(金) 正規採用職員「中間研修」
- 10日(日) 南区区民まつり
- 11日(月) 事業運営推進会議
- 12日(火) 保護者連合会定例会/法人安全衛生委員会
- 13日(水) 副所長会議
- 14日(木) 3年目研修
- 16日(土) 非正規職員研修
- 18日(月) きょうされん愛知支部愛知県行政懇談
- 20日(水) 所長会議
- 23日(土) 理事会
- 25日(月) 研修部会議
- 26日(火) 人材確保推進委員会
- 27日(水) 広報・ホームページ編集委員会 /作業改善ゼミ
- 28日(木) 強度行動障害者支援者養成講座 「基礎研修」～29日

表紙の作者紹介



トライズ
福吉 幸実さん

福吉さんは2019年6月にトライズの回収現場へ入職しました。誰とでも明るく元気に話される方

です。絵を描くのがとても好きで、紙とペンがあればいつでもどこでも絵を描かれます。仕事を覚えるのが早く、重いものでも持つことができ、即戦力として活躍をされています。

作品について「なぜ、この絵を描いたのですか」と尋ねると、「もうすぐ1月、1月といえば雪、雪といえば寒い、寒いといえば…と連想していたら、岐阜の白川郷が頭の中に浮かび、イメージだけで描いた」とのことでした。

ご本人からは「広報の表紙に掲載させて頂き、誠に光栄です。ありがとうございます。」とコメントを頂きました。

一般寄附(11月・12月)

岩田 恒子 宝南学区女性会
白井 公子 池野 柘也

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覧)

(11月27日～12月10日手続き分) 順不同敬称略

| | | |
|----------------|-------|-------|
| 古川 幸助 | 宇都宮啓子 | 及川 博子 |
| 古川 英利 | 岡安八重子 | 田中 正二 |
| 駒村 忠俊 | 篠田侑右子 | 安田 訓明 |
| 武井 欽子 | 赤星 俊一 | 高木 真美 |
| 河本ふじ江 | 清水 理師 | 岩崎 正夫 |
| 岩田 恒子 | 遊佐 和美 | 加藤 禎男 |
| 伊藤 澄子 | 中村 邦夫 | 後藤 和治 |
| 星屋 政司 | 野村 文男 | 小田 康子 |
| 江上 直子 | 早川 由美 | 半場とし子 |
| (株)イリエ | 青木 一博 | 伊藤智恵子 |
| (株)理想設計 | 細川志喜子 | 早川 剛史 |
| 東海ニチュウ(株) | 檜山 桂子 | あすなる園 |
| 三和化学産業(株) | | |
| 中日印章印刷(株) | 林克己 | |
| アトラスカーゴサービス(株) | | |

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございます



広報・444号

2020年1月号(2020年1月10日発行)
定価1部100円
法人協力会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協力会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協力会費 = 年間1口 6,000円、
賛助会員(個人1口 3,000円、企業団体等1口 5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

2020年 私たちのメッセージをお届けします!



つゆはし 作業所

なかよし班

共同制作

「今年もよい年になりますように」



なるみ 作業所

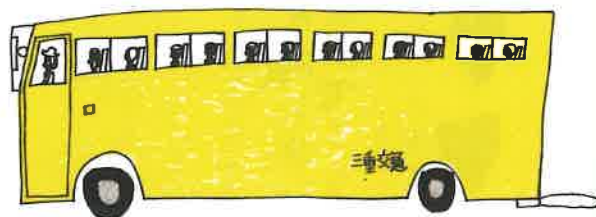
澤田 政人さん

ぼくの好きな戦隊ヒーローとのりものを描きました。



森井 照子さん

あけましておめでとうございます
2020年

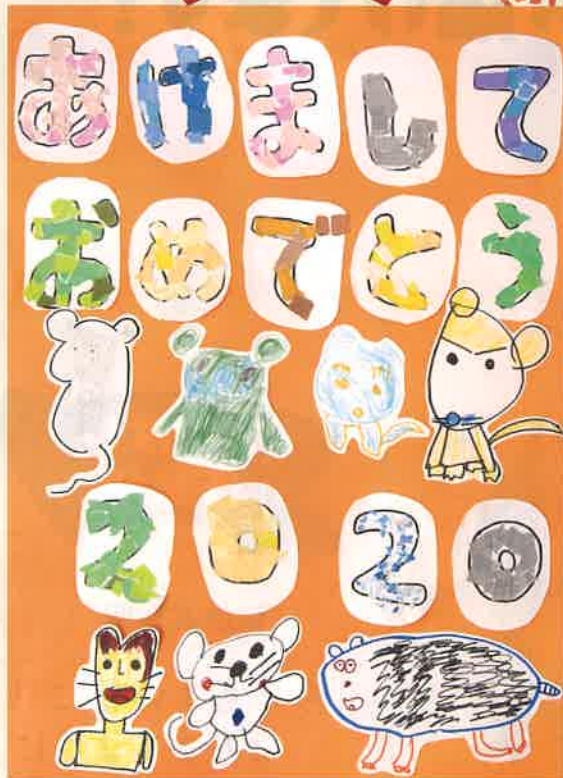


棚橋 智

棚橋 智さん バスの絵を書きました。

みらいろ

共同制作



「お相撲だぞ」



杉山 健一さん

みのり 共同作業所



坂上 颯さん



山口 葉子さん



横山 大貴さん



久保田 咲子さん



加藤 亜美さん

あかつき 共同作業所



木村 真悠さん

ゆたか
希望の家



住田 恵利さん



玉置 信行さん

第2ゆたか
希望の家



倉橋 義一さん



太田 深雪さん



松井 香澄さん



藤野 豊さん

事業所
あつた



野添 ちづるさん

リサイクル港 作業所

「カラフルなネズミ年」

共同
制作



津口由紀子さん

初めての年賀状作りをして
折り紙を使って
初めて作りました、
とても楽しかったです。

山下芳宗さん

ネズミを描くのを
頑張った。

福嶋一貴さん
楽しくできたと
思います。

大矢徳三さん
年賀状を
出来て良かった。

餅原達也さん

折り紙を使って
ちぎってネズミ年の
ちぎり絵を貼りました。

デイサービス 宝南



武野 喜美子さん



河野 スミエさん



伊藤 愛子さん



宇田 幸枝さん